

～農村政策に関心のある皆さまへ～

志望者へのメッセージ

農林水産省東海農政局

農村振興部 農村計画課・農村環境課

■ 求める人材

農業や自然環境などの分野を学ばれ、農村政策に関心のある方。

※ 採用する試験区分：国家公務員一般職（農学、農業農村工学、物理、化学、機械、デジタル・電気・電子、土木）

■ 業務の特徴

「現場主義」を実践する農林水産省の中で、農村の現場において、農業者や市町村等の皆さんと一体となった農業生産性の向上や農村地域の活性化と振興を図る取組、フィールドワークもある職場です。

農村現場において地域に根ざした取組、農林水産省本省において農村振興に関する施策立案に携わる業務を担当します。

業務の例

～ 農村現場において地域の潜在力を引き出す仕事に取り組みます ～

- 農泊、農業遺産等の地域の資源を活用した農山漁村の活性化に向けた支援
- 鳥獣被害防止・ジビエ利活用の拡大等の鳥獣対策への支援
- 優良農地の確保のための都市と農村の土地利用の調整
- 農業の生産基盤（用水・農地等）の整備・保全による地域農業の生産性向上に向けた計画づくりと営農展開支援
- 農村環境の保全のための調査、地質・地盤環境に関する調査・技術支援 等



スマート農業技術の導入に対応した基盤整備
生産基盤の整備・保全による生産性向上



鳥獣被害の防止



ジビエ利用の拡大



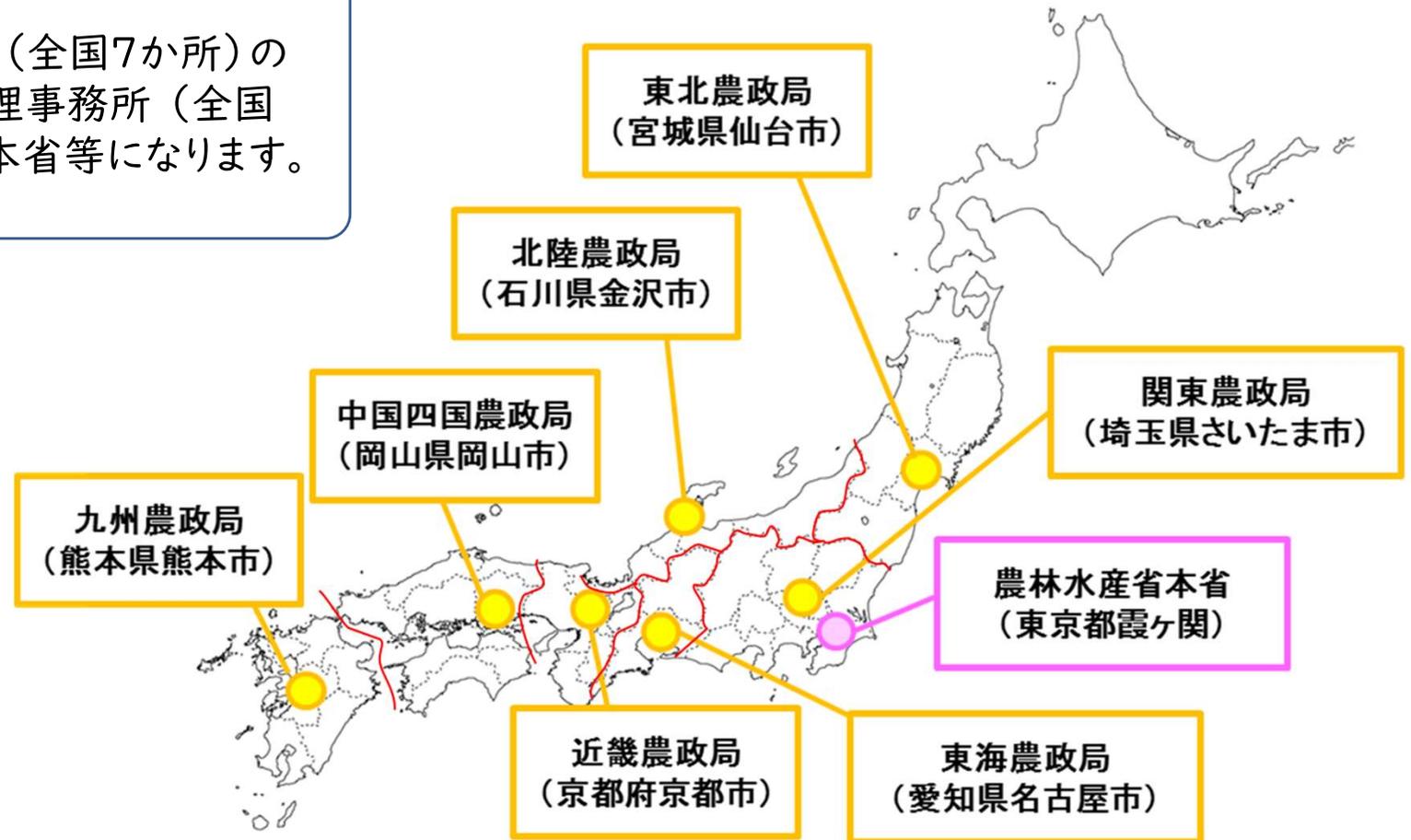
農業遺産

農泊

地域資源の活用による農山漁村の活性化

主な勤務地の所在地

勤務地は地方農政局（全国7か所）の
本局、土地改良調査管理事務所（全国
15か所）、農林水産省本省等になります。





東海農政局
木曾川水系土地改良調査管理事務所
調査課

川邊 溪一郎

入省年次: 令和3年度(4年目)
出身大学: 日本大学生物資源科学部
試験区分: 農業農村工学

志望者へのメッセージ

関係者とのコミュニケーションを大切にしましょう！

担当している業務について

私は令和6年度で入省4年目になりました。入省2年目までは東海農政局の本局にある農村環境課で勤務し、主に環境や生態系に係る調査計画の検討・立案、業務の発注、報告書の作成等を行っていました。

入省3年目からは本局を離れ、木曾川水系土地改良調査管理事務所で勤務し、国が直轄で行う国営事業の調査・計画を担当しています。引き続き環境や生態系に関する業務に加え、土地利用、営農計画、費用対効果算定に係る調査等を行っています。

調査計画を志望した理由

実家が田舎なので、もともと農業や環境は興味がある分野でした。大学でも農業や環境のことを学んでいく中で、研究室の先生の勧めもあり、農業農村工学分野での試験を受け、より農村の環境に係る仕事ができる調査計画を志望しました。

入省前と入省後で印象が変わった点

国の機関ということで、地元の方と関わる機会は少ないと思っていましたが、業務を行う中で農家の方や大学の先生等と関わる機会も少なくなく、そういった方と農業や環境のお話ができるのはとても有意義に感じています。

自身のワークライフバランスについて

職場は定時で帰りやすい雰囲気なので、定時で帰るために自分の中で区切りをつけて、時間内に業務を完了できるように頑張っています。また、連休や夏季休暇は有給休暇と組み合わせた長期休暇の取得を行っています。

業務内容について

各種調査等の実施

具体的には、国営土地改良事業計画の策定に必要な各種調査等を行うために、調査計画の検討・作成、業務の発注・実施、取りまとめを行っています。一部の調査結果については検討会を開催し、関係機関や有識者といった方から意見をいただいています。

営農 調査の様子 環境



検討会の様子



年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各種調査等の発注手続き						来年度の計画作成					
各県庁、市役所等から資料収集						各種調査等の取りまとめ					
各種調査等の実施									検討会の開催		

新規採用者として感じたこと

プライベートの時間を大切にしましょう！

仕事も大切ですが、仕事を頑張るためにも、ある程度で区切りをつけて、プライベートの時間は自分の好きなことに没頭するメリハリのある生活を心がけましょう！

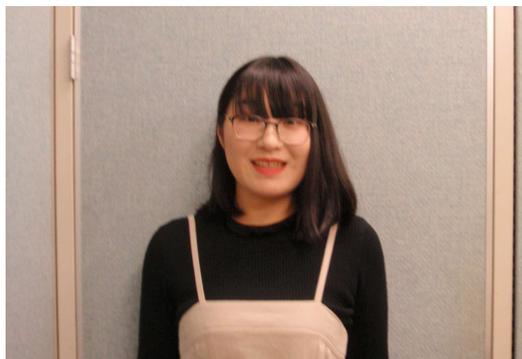
私は基本インドア派なので、家の中でTVゲームやYouTubeで動画を見たりすることが多いですが、小さい頃から釣りが好きなので、定期的に外へ出て海や川に出かけています。

また、今年の冬に初めてスノーボードに挑戦してみました。新しく何かを始めることで、普段の生活に刺激が生まれてより良いものになると思います。

皆さんも就職していろいろと生活環境が変わると思いますが、この機に何かを始めてみてはどうでしょうか？



令和7年1月作成



東海農政局農村振興部農村環境課

久保 千尋

入省年次: 令和5年度入省(2年目)

出身大学: 畿央大学健康科学部

試験区分: 農学

志望者へのメッセージ

国家公務員は内定が遅く、不安になると思いますが、調査計画に興味をもって受験してもらえると嬉しく思います。

担当している業務について

主に環境保全調査に係る業務を担当しています。調査方針は本省が設定するので、その目的に沿った結果が得られるように、具体的な調査計画の検討・立案を行っています。現在は巣穴による水田のあぜやため池堤体の崩壊、生態系への影響などの被害を及ぼすアメリカザリガニ(特定外来生物)の駆除方法などをマニュアルとして整理し、営農者や施設管理者へ提供、支援を行うことを目指して調査に取り組んでいます。

調査計画を志望した理由

祖父が農業を営んでいたため、農業・農村に関心を持っていました。現場に近い立場で農村整備等に携わりたいと思い、調査計画を志望しました。

入省前と入省後で印象が変わった点

デスクワークが多いようなイメージでしたが、調査地に赴いたり、意見交換のため大学を訪問したりと出張が多い職場で印象が変わりました。研修の実施もあり、就職してから学ぶことができます。

自身のワークライフバランスについて

基本的に定時で帰ることを心掛け、業務に区切りをつけて有給休暇を取得するようにしています。また、趣味のゲームや読書など充実した休日を過ごすことでリフレッシュしています。

業務内容について

環境保全調査について

調査の計画・立案を行い、業務発注に係る事務手続き、県、市町村などの関係機関との連絡調整及び結果の取りまとめが主な仕事です。

現場で業者の監督や調査地点を確認したり、調査結果について有識者委員会を開催し、他の農政局や大学の先生から意見をいただくこともあります。



アメリカザリガニ



アメリカザリガニを捕獲する様子

調査の年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査等の発注手続き									来年度の計画作成		
調査実施						有識者委員会			有識者委員会		
									報告書の作成		

新規採用者として感じたこと

民間企業から転職して感じたこと

私は元々民間企業に勤めており、社会人2年目で国家公務員に転職しました。大学で農業に関する勉強をしたことがなかったので、自分にこの仕事ができるだろうかと不安に思っていたのですが、上司に相談しやすいこと、研修や勉強会に参加できることもあり、業務で不安に思うことは少ないです。



プライベートの過ごし方

業務を調整すればテレワークや休暇も取りやすいため、友達と旅行にでかけることもあります。仕事もプライベートも両方充実させることができます。



令和7年1月作成



東海農政局農村振興部農村計画課

佐藤 広武

入省年次: 令和6年度入省(1年目)

出身大学: 日本大学生物資源科学部

試験区分: 農業農村工学

志望者へのメッセージ

規模の大きな事業から地域の調査まで、様々な経験ができることが魅力だと思うので、ご興味のある方は、ぜひ面接を受けてみてください！

担当している業務について

私の担当業務は、農地の確保を目的とした「農業振興地域の整備に関する法律」(以下「農振法」)に関わる制度(農振制度)の適正な運用を図るための支援等を行っています。農振制度の適正な運用により、農地を農地以外に利用(工場建設等)することを規制し、守るべき農地のエリアを明確化することで、地域農業の発展に寄与しています。

調査計画を志望した理由

採用試験を受ける段階では調査計画系のことは全く知りませんでした。面接を受けた際に、調査計画系の面接も受けてみないかと誘われたことがきっかけです。

そこで業務内容を聞き、国営土地改良事業の立ち上げに携われることやフィールド調査を行い、現場を肌で感じられるところに魅力を感じ志望しました。

入省前と入省後で印象が変わった点

超過勤務(残業)が多いようなイメージでしたが、全職員が定時に帰る日を設けていたり、上司の方から定時帰りや有給休暇取得を進められることがありました。

これまでの働き方を変えて、プライベートの時間を確保する取り組みを推進していることが印象的でした。

自身のワークライフバランスについて

ほぼ毎日定時に帰ることができているので、退庁後にスポーツをしたり、同僚とご飯に行ったりしています。

有給休暇についても、1時間単位で取ることが可能なので、仕事と自身の予定に合わせて休むことができます。

業務内容について

農振制度とは、都道府県や市町村により、農振法に基づいて農業の振興を図る土地（農業振興地域（以下「農振地域」）や農地の利用計画を決めることで、農地を保全し、地域農業の発展を図る制度です。

土地利用の調整

地域の発展には工場や住宅地が欠かせませんが、農地を他の用途に使う場合に、周辺の農地に影響がないか、その規模が妥当かどうか、調整を行います。



開発予定地の現場調査

確保すべき農用地等の面積目標の達成状況調査

農地は工場や住宅地として使われ、減少しています。

この調査では10年先まで確保しておくべきと定めた農振地域内の農用地等が、現在どの程度あるのかについて調査をします。

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
確保すべき農用地等の面積目標の達成状況調査(昨年度3月～)											
			農振制度研修			農振制度運用実態調査					
土地利用の調整/都道府県・市町村・一般の方からの相談対応											

新規採用者として感じたこと

プライベートと仕事の両立

社会人になると休みの日や退勤後の時間も貴重になり、仕事へのモチベーションにもつながってくるので、普段からスケジュール管理を行い計画的に仕事を進めることが大事だと感じています。

ただ、様々な人に作業を依頼することが多く、その方たちのことも考えてスケジュールを組むことの大変さも感じています。

考えなければいけないことがたくさんありますが、計画的に作業を進め、有給休暇を取れる見通しを立てたり、取れそうな日があれば積極的に休みを取り、気分転換をしています。



夏季休暇(8月10日～18日)を取得した際に行ったキャンプ場



箱根旅行で訪れた九頭龍神社

令和7年1月作成



東海農政局農村振興部農村環境課

小林 花

入省年次: 令和6年度入省(1年目)

出身大学: 帯広畜産大学

試験区分: 農学

志望者へのメッセージ

仕事が幅広いので、好きなことや特技を活かせる機会が必ずあると思います。農業だけでなく、生物、植物や景観などに興味のある方にもおすすめです。

担当している業務について

鳥獣被害対策に関する業務を担当しています。野生鳥獣による被害は、営農意欲の低下や離農の増加、希少植物の食害など、被害額として数字に表れる以上に農山漁村に深刻な影響を及ぼしています。これらの被害を防ぐために、地域の方々が取り組む鳥獣被害防止対策を支援する交付金の手続きやジビエ利用拡大に向けた普及・啓発活動を行っています。農作物の被害金額は、高い水準であり、対策への支援がとても重要となっています。

調査計画を志望した理由

大学生活を農業が盛んな地域で過ごして農村振興に興味をもち、誰にとっても農業がより身近な産業になるようにしたいと思い、調査計画系を志望しました。また、全国の色々な地域で働けることも魅力を感じました。

入省前と入省後で印象が変わった点

黙々と仕事をするイメージを持っていましたが、現場へ出たり外部の方と打合せをすることもあり、にぎやかな雰囲気職場で印象が変わりました。
業務のなかで電話対応をすることが非常に多く、意外でした。

自身のワークライフバランスについて

仕事に力を入れる時と休む時のメリハリをつけられるように意識しています。有給休暇が取りやすい雰囲気なので、自分の都合に合わせてやすいです。

業務内容について

交付金に関する業務

侵入防止柵や捕獲檻を設置するなどの対策を支援する交付金の申請内容を審査し、支払い決定をする手続きを行います。また、被害状況などの各種調査では、県への調査依頼・取りまとめも行います。

侵入防止柵



ジビエ利用拡大に関する業務

捕獲鳥獣を地域資源であるジビエとして利用して農山村の所得に変える取組も大切です。そのジビエを多くの人に知ってもらうため、局主催のイベントを開催したり、各県のイベントへ参加してジビエに関する展示・説明を行います。



ICT捕獲檻

シカの枝肉



R6局開催イベント

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
県へ予算割当公表	申請内容の審査	支払い決定	追加支払い決定(随時)								
前年度事業実績報告の審査、額の確定			ジビエイベント								
調査依頼・取りまとめ(随時)											

新規採用者として感じたこと

プライベートと仕事の両立など

社会人になって、学生時代とはまた違った忙しさを感じながら、過ごしています。働き始めてから、規則正しい生活を送るようになりました。その中で気分転換がとても大事に感じました。

仕事終わりに本屋を散策したり、美味しいものを食べに行ったりなど、仕事の日であっても少しでも好きなことができた時間を作るようにしています。通勤時に街路樹の様子を観察するなどの楽しみも作っています。

休日は、のんびりして気の向くままに自分の時間を大切にしています。



通勤途中で撮影した名古屋城



休みの日に東山動植物園に行ってきました

令和7年1月作成

お問い合わせ先

東海農政局農村振興部

農村計画課長 野田(のだ) ☎:052-223-4629(直通) mail:kazufumi_noda500@maff.go.jp

農村環境課長 節賀(せつが) ☎:052-223-4631(直通) mail:shigeki_setsuga930@maff.go.jp